

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370600639
法人名	医療法人 誠真会
事業所名	グループホーム おかもと
訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370600639
法人名	医療法人 誠真会
事業所名	グループホーム おかもと
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5 (電話) 0968-71-2622

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月9日

## 【情報提供票より】(20年11月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 7.2 人	

### (2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2			
年齢	平均 90 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本外科医院 城ヶ崎病院 玉名地域保険医療センター 城井歯科
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医院に隣接したホームは理念に掲げている“ゆとりと笑顔のある家 安心と尊厳のある生活の支援”を目指し、入居者一人ひとりの思いや言動を受容し、平均年齢90歳という中で機能低下防止の“つもりマラソン”では笑い声が響き渡り、転倒防止に職員の観察力を反映したプランと居室環境作りにより安心した生活を送っている。医療との連携・家族の協力支援や日々の健康管理に詳細な記録を残し、個別ケアの実践やケアの統一に向けた取組みが終末期生活援助を可能なものになっている。商店街の活性化に一役を担ったり、在宅独居高齢者の安否確認を兼ねた年末の餅配布等地域密着型ホームとして積極的に関わっており、今後も更に多機能性が発揮されることが期待できる。職員の明るい対応や寄り添いのケア等が入居者の思いや笑顔を引き出し、大家族として仲良く和気あいあいとした生活を送っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果については計画を立てながら改善の取り組みに繋げている。ホーム便りへ食事の献立を写真で掲載し家族への報告としたり、「終末期生活のための契約書」と「急変時における対応についての同意書」を新たに作成し重度化や終末期に向けた方針を明確にする等具体的な改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解しており、今回の自己評価は各ユニット毎に連絡ノートを活用しながら話し合い、纏め上げている。全員での話し合いにより改善点の明確化を図り、ゆとりを持ったケアに当たるため職員の増員やトイレの改修・家庭的な環境作りや玄関の整備等すでに改善されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は行政・地域包括支援センター・区長・家族・入居者も参加し、近況報告を行い、参加全入居者の意見や要望を聞き、委員との質疑応答を行っている。日常の中で改善すべき事項を運営推進会議に提示しサービス向上に反映させている。外部評価の結果は報告に留まっており、今後更に外部評価結果等の意見交換等内容を充実する意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時状況報告を行い、毎月“おかもと便り”と職員の手紙や写真により情報を発信している。心身の変化時には随時電話連絡により家族の不安解消に努めている。家族の訪問時や年1回の家族会・運営推進会議を問題提起の場と捉えている。家族会ではよく意見が出ており、出された意見はミーティングを行い、ホーム運営に反映させている。ホーム内外の苦情相談窓口を玄関先に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として商店街の夏祭りに企画・参画し地域の活性化に一役を担ったり、ホーム主催の花見や餅つき等に多くの参加を得、近隣の独居老人へ餅を配布し安否確認したり、夏祭りは近隣住民へチラシを配布し多くの参加を得ている。敬老会への幼稚園児の慰問や踊りの慰問などもあり、運営推進会議を生かし様々な交流を行っている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より職員の入居者に対する姿勢と地域に密着しゆとりと笑顔のこぼれるホーム作り、地域に開かれた“家”を目指すことを理念として掲げている。理念の他、①「はい」という素直な心 ②「すみません」という反省の心 ③「おかげさまで」という謙虚な心 ④「させていただきます」という奉仕の心 ⑤「ありがとうございます」という感謝の心“五つの心”を掲示し、職員のケアの拠り所としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニットに掲示し理念の意識付けにするとともに、日々の送り迎えやミーティング時に理念に沿ったケアであるか確認したり、各ユニットが入居者個々のケアの違いやケア方針を掲示し全職員が共通認識のもと、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として商店街の夏祭りに企画・参画し地域の活性化に一役を担ったり、ホーム主催の花見や餅つき等に多くの参加を得、近隣の在宅独居高齢者へ餅を配布し安否確認したり、夏祭りは近隣住民へチラシを配布し多くの参加を得ている。敬老会への幼稚園児の慰問や踊りの慰問などもあり、運営推進会議を生かし様々な交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、今回の自己評価は各ユニット毎に連絡ノートを活用し話し合い改善点の明確化を図り、ゆとりを持ったケアに当たるため職員の増員やトイレの改修・家庭的な環境作りに玄関の整備等すでに改善されている。外部評価結果については計画を立てながら改善の取り組みに繋げている。ホーム便りへ食事の献立を写真で掲載し家族への報告としたり、「終末期生活のための契約書」と「急変時における対応についての同意書」を新たに作成し重度化や終末期に向けた方針を明確にする等具体的な改善を図っている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は行政・地域包括支援センター・区長・家族・入居者も参加し、近況報告を行い、参加全入居者の意見や要望を聞き、委員との質疑応答を行っている。日常の中で改善すべき事項を運営推進会議に提示しサービス向上に反映させている。外部評価の結果は報告に留まっており、今後更に外部評価結果の意見交換等内容を充実する意向である。	○	運営推進会議の内容の充実を図る意向であり、議事録の送付により家族との情報の共有化と外部評価結果を踏まえ委員との意見交換を行いホーム運営に生かされることを期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や介護認定申請時等の交流がある。ホーム行事時のボランティア受入れの相談に出向いたり、市が開催する勉強会に参加しサービス向上に取り組んでいる。また、運営者はボランティア活動を通じ行政との連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時暮らしぶりや健康状態等報告したり、毎月“おかもと便り”(家族の安心に繋がりたいと献立を写真にして掲示するなどグレードアップしている)に手紙や写真により情報を発信している。金銭管理は金銭出納帳に領収証を添付し確認してもらっている。心身の変化時には随時電話連絡により家族の不安解消に努め、ホーム内には多くの写真を掲示し、日常生活の様子を発信している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しているが苦情等は寄せられておらず、家族の訪問時や年1回の家族会・運営推進会議を問題提起の場と捉えている。家族会ではよく意見が出ており、出された意見はミーティングを行い、ホーム運営に反映させている。又、家族にも行事案内を行い、家族同士のコミュニケーションの場となっている。ホーム内外の苦情相談窓口を玄関先に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護負担の差によりユニット間の異動も考えているが、入居者・家族との信頼関係の構築のためこの3年間は異動は行われていない。この1年2名の離職があったが引継ぎの徹底によりスムーズに引き継がれている。運営者は新たに非常勤職員や夜間専門職員の増員により職員の処遇や勤務体制を充実させ職員の定着に向け努力しており、職員同士の意思疎通もよく、明るくケアに当たっている。		
の					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はケアマネジャー協会やグループホーム連絡協議会等の勉強会等へ輪番で参加する等研修機会は確保されている。毎月の定例会議後研修報告を行ったり、各ユニットが交代で実技訓練等を行い質の向上に取り組んでおり、運営者は職員は“人財”であると認識し資格取得を奨励し、受験へのきっかけになればと受験費用の援助や研修への参加を勤務としており、職員も資格取得に向け自己研鑽している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会議や研修会等に参加し、情報交換により問題点を見出したり、お互いにアドバイスを行う等サービス向上に取り組んでいる。玉名支部が一体となり“のど自慢大会”を昨年より開催し、昨年は司会担当、今年は委員として入居者ともども参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より家族より情報を収集し、安心した入居となるよう家族とともに事前に見学してもらい、本人との信頼関係作りを取組んでいる。入居後職員が寄り添い安心してもらったり、散歩での気分転換や家族と電話で話してもらいながらゆっくりと馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりに向き合い各ユニットが和気あいあいと仲良く生活しており、調理や礼儀作法等知恵袋を引き出すよう食後は団欒の時間としている。日常生活の中で得意なこと・できる事を一緒に行い、職員は感謝の言葉を伝え、入居者は職員の動きを観察しねぎらいの言葉をかけている。入居者の人生の過程を共感し、年長者として尊敬の念を持ってケアに当たっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、日々の寄り添いや関わりのなかで心境を読み取り、求められていることを推察しケアに当たっている。又、家族や来訪される知人等から情報を収集し、本人本位になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ホーム職員の他、医師である理事長等を交え全入居者のケアカンファレンスを開いている。重度化・高齢化の進む中で特に転倒防止に注意しており、日々の職員の観察や気づきが反映した介護計画である。立案時には家族や職員以外にも運営推進会議の委員や隣接病院の理学療法士・栄養士等からの意見を総合的に考察し、詳細なプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月の見直しとなっているが、毎月モニタリングを行い、プランと現状を常にチェックし現状に即した介護計画を作成している。日々の暮らしの様子や利用者の発せられる言葉、職員の気づき等詳細に記録し、申し送りの徹底や情報の共有化を図り介護計画の見直しに繋げている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により専門医の受診や金融機関への同行、外泊の支援等臨機応変に支援している。母体医院が隣接しており緊急時対応の確立や日々の健康管理により安心した生活を継続している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等希望の医療機関となっている。医師である理事長も頻りに訪れ状態把握に努められることや専門的な治療については主治医から専門医を紹介してもらい適切な治療を受けられるよう支援している。また、24時間いつでも医療支援が受けられる安心感もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医師や看護師を交え終末期の対応方針を話し合い、両ユニットの協力や主治医・家族との連携のもと最期まで看取った経験から、全職員が少しでも長くホームでの生活を支援する意向である。新たに「終末期生活のための契約書」と「急変時における対応についての同意書」を作成しホームの方針を明確にしている。現在も入居者本人が自分の意思を手紙にしたため、最期をホームドクターにと意思表示されており、今後家族会等を通し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行い、同意を得て、状態変化の都度家族と向き合い、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援に繋げていく意向である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを大切にされたケアに取り組んでおり、耳元でのトイレ誘導や入浴時も見られたくないとの思いに外から声かけする等プライバシーの確保や尊厳を守るよう支援している。面会簿の取り扱いや記録の保管等個人情報の漏洩には細心の注意を払っているが個人情報の保護についての勉強会は今のところ開催してない。	○	家族には個人情報使用目的等についての同意書を受入れており、インターシップで訪れる高校生にも守秘義務についての説明と同意書を受入れや毎月の勉強会の中に個人情報保護についても組み入れることが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れの中で、個々の体調やペースに合わせたケアに取り組んでおり、起床・就寝・入浴や食事時間等個別支援を行っている。昼食後も居室で休憩される入居者や数名でテレビを見たり、新聞を読んだりと自由に寛がれていた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の嗜好を把握し、各ユニット毎に料理本を見ながら入居者とともに献立を決めている。入居者も下ごしらえやテーブルクロスを用意したりとできる事を一緒にやっている。職員も介助の必要な入居者の横に座り、食の進み具合を確認したり、入居者との会話を楽しんだり家庭的な雰囲気の中での食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階のユニットでは午後から入浴順番を決めゆっくりと入浴してもらうように、2階ユニットでは毎日希望を聞き入浴を支援している。入浴拒否には家族に声かけをしてもらったり、居室のカレンダーに自分で入浴日を記入し意識付けとされる入居者もおられる。又、就寝前の足浴により安眠に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や知恵を発揮できるよう生活歴や趣味等を把握し、残存能力を生かす場面作りに取り組んでいる。料理の下ごしらえや洗濯物たたみ等自然発生的に行われ、カラオケやちぎり絵等アクティビティも多様に用意し、体力維持を目的にした“つもりマラソン”は好評で「今日はどこに行きましょうか？」との声かけで両足を動かしたり足踏みを行い、「頑張れ！」と笑い声が響き渡っており、地域行事への参加やホームの行事とともに気晴らしの一環となっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化や筋力低下により毎日の外出は難しい状態ではあるが、天気の良い日には敷地内を散歩したり、ホーム裏の公園へ出かけ外の空気に触れるよう支援している。また、個別の買物支援やドライブ・毎週教会のミサに出かけている入居者もあり、数人の入居者は夜祭にも参加している。計画したバスハイクには家族も同行され楽しまれており、今後も家族の協力を得ながら外出の機会を増やす意向である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、外出の傾向や心情を察知し、納得されるよう対応している。2階は常に開放しており、時には下において散歩に出かけられることもあり職員は一緒に付き添っている。入居者の不穏状態が強いときは1階の玄関に鍵をかけることもあり、その日の個々の状態の確認と所在確認の徹底に努めている。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、入居者も参加し隣接医院と合同での防災訓練を行っている。自動通報装置や緊急時マニュアル・行方不明時の対応等マニュアルを整備し、日々火元確認を徹底している。今のところ近隣住民への協力要請はしておらず、今後近隣への声かけにより、まずは訓練の見学からはじたいという意向がある。	○	運営推進会議には委員として区長の参加もあり、まずは運営推進会議で地域の人々への協力要請や訓練日の周知の仕方等検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をバイタルとともに記録し、栄養管理に活かしている。水分補給は毎食時・10時・3時や入浴後等1, 500CCを目安に適時支援している。個々の嚥下状態などによりお粥やキザミ食等と個別支援が行われ、食欲減退時には母体の医師や看護師に指示を受け補助食品を採り入れる等適切な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横には季節の花が植えられ、玄関内に活けられた花が季節感を彩っている。共有空間には入居者の作品や日常写真を掲示し、掃除が行き届いた清潔感漂うなかで入居者がゆったりと過ごすことができる環境である。各居室は職員が描いた似顔絵で明示している。トイレの改修も済み、玄関内の整備により入居者の休憩スペースを作るなど工夫しながら生活環境を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、仏壇・位牌・タンス・テレビ・冷蔵庫他様々な生活用品が持ち込まれている。ベッドの高さも個々の身体状況により調節したり、空き箱の再利用による整理整頓を行い、足元へのマット使用や家具の角にはスポンジテープを張り転倒防止に配慮した安全で居心地良く過ごすための工夫が随所に表れた居室である。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 誠真会 グループホームおかもと
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市亀甲251-5
記入者名 (管理者)	平川 峰子
記入日	平成 20年 10月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちはひとりひとりを大切に、安心と尊厳ある生活を守ります、地域に密着した皆にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指します」ゆっくりとして穏やかな安らぎのある暮らし、地域に開かれた家を目指すことを掲げながら理念を作り上げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	話し合いの場をもって一人一人の豊かな生活の為希望に応じるようケアの統一を図り対応に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪時家族へ折に触れ伝えている、又ホーム便りの活用やホーム見学の際にわかりやすく説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	掃除時挨拶を交わしたり日常会話を兼ね行事等の声かけを気軽に会話を交わしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事への参加は声掛けで参加してもらっている、又地域でのイベント等あるときは出向き交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	2ヶ月1回運営推進会議を利用し研修会への参加及び実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	意義や目的を他スタッフへ伝達、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は改善へ向け検討し実践努力している。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	現状、状況報告、現在取組んでいる内容について報告や意見要望を経てサービス向上に生かしている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議以外、行き来する機会がない為、会議時事業所の実情やケアへの取り組み等折の触れ伝達、サービスの質に向上に努めている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修会参加により学び、対応が必要な方があれば随時スタッフに説明・アドバイスをし支援に結び付けたい。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	各々スタッフが自覚し常に注意し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって、丁寧かつ十分な説明をする余裕がなく、重要点のみ説明、又不安・疑問点を尋ね理解納得を得ている。</p>	<p>○</p> <p>十分な時間的余裕を取り説明が必要な取り組み強化をしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>言葉や態度から、思いを察し努力しケアに活かしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来訪時現状報告を伝達、月便りを郵送し金銭出納帳による使途の確認、個別ノートに記し必要時その都度報告している、行事ごとの写真やビデオを見て頂いている。</p>	<p>○</p> <p>便りの空きスペースの有効活用として食事メニューや献立を写真として掲示はされたがスタッフのプロフィールやメッセージ等検討している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会や手紙・訪問時の意見要望をミーティングで話し合ったり、連絡ノートを通し検討、質の向上に取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや申し送り時に意見要望や提案等、出されたらコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたりし反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>無理の無い勤務になる工夫が出来、又都合に応じ柔軟にスタッフの配慮を考えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最小限に抑える努力をし、固定化にほぼ近く顔馴染みのスタッフがケアを心がけている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会等、ほぼ順番で参加し定例会で発表、報告書を回覧したり日々の体験を意見アドバイスを受け学びにつなげ育成に取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部会、研修等や学習会での交流を持つことによりサービスの質の向上を目指している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常会話時にストレス・悩みを把握する様努め、定例的な支部会での交流で気分転換を図る機会を作ってもいる、又休憩場所の確保に取り組みストレス軽減を図った。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け支援をし、活かせる業務環境作りに努めている、職員の定期的な健診も行って心身の健全育成にも努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握、心身の状態や思いに向かい合い、受け入れられる関係作りに努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の求めているものを理解し、どの様な対応が出来、これまでの家族の苦勞・サービスの利用状況・これまでの経過について聞くように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスにつなげる様にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が施設や自宅に出むいたり、本人と家族が見学してもらう事から始め、安心感やホームの雰囲気を知ってもらえる様にしている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互い協力しながら和やかな生活が出来る場面作りに声掛けをしている。ADL支援も行なっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子、職員の思いを伝える事により家族と職員の思いが重なり、協力関係が築けることが多くなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と共に過すことを勧めたり行事へのお誘い等で良い関係作りを継続的に勧め来訪時に本人と家族の橋渡し役を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋行き、1ヶ月の間隔で定期的に行かれ楽しい交流がなされている、車椅子での送迎を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を傾聴したり、相談に乗ったり、楽しく過ごす時間に気の合う物同士で過される場面作りになる様働きかけもしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設転所となりしも用事にて出むいたり電話にて近況報告の情報を得たり家族への介護負担軽減の相談を受けフォローアップに努めている。	○	今後も家族への行事等声掛けし参加を促し招待して関係を大切にしたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし把握に努め家族や関係者からも情報を得る様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との語らいの中、家族・知人の来訪時少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムを理解し行動動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中、思いや意見を聞いて反映している、アイデア等も反映に入れている。(転倒防止等として足マット、ベッド周辺の布当て角々のスポンジ当て、テープ固定、滑り止め靴下、杖立ていれ)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しを行なっているが現状と以前の状況の比較により変化が生じた時、本人家族必要関係者の要望に応じ随時見直し、介護計画を変更、新たに作成している。管理者はケアの統一と情報の共有化の為申し送りノートに個別ケアを指導したり申し送り徹底化を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス・個別ファイルを用意し、状況把握とケア記録・情報共有を徹底し活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に対応している、本人家族の状況に応じて外泊・通院・送迎支援にも柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心に暮らせるよう、各機関と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により、訪問理容サービスを活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員参加により周辺情報や支援に関することが得られ関係が強化された。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医・入居前のかかりつけ医との医療受診も受けられている、複数の医療機関と関係を密にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		日々の関わりの中で点検し対応の徹底を図っている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		職員側で決定したことを押し付けず、思い・希望・関心・嗜好を見極め選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		一人一人の体調に配慮しながら自分のペースに応じた支援をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		自己決定が困難な方は職員と一緒に考え支援している、馴染みの理・美容院に行ける様に努めている。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		同じテーブルを囲み楽しい食事が出来る雰囲気作りを大切にしている、旬の食材を献立に取り入れ食べたいもの等、希望に添うように作成し食事をお出ししている。又一緒に準備後片付けをも行なっている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		各自の嗜好物を理解し状況に応じた支援をしている、又行事や特別の時本人の体調に合わせて提供をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間やサインを把握し、排泄チェック表を使用し誘導排泄を促し支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のローテーションにより一人一人の希望タイミングに合わせてが困難、午後より入る順番を決めゆっくり入ってもらって満足感を得られている。	○	入る順番で争いトラブルになっていたが、納得いく説明で理解を得た上トラブル解消、入浴日を忘れる方は、自室カレンダーに職員同行で自筆で記入・意識付けに取り組んではいるが、記入したこと自体を時に忘れられる為、臨機応変に対応し、入っていただいてもいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	考慮して休憩を取れる様支援しており就寝前温かい飲み物を夕食後1～2時間経ってからお茶だしをして、飲みながらおしゃべりしたりして支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみ等されたり、経験や知恵を発揮する場面作り、外出や行事への参加楽しみごとを相談しながら行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を手元に持ち、買い物や外出の際支払われる様支援している。加齢と共に、忘れも目立ち、家族や本人と相談の上一人一人の希望に応じて、事務所預かりの場合は、個人の金銭出納帳に記入し、領収書を添付して管理して支援に取り組んでいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候体調に応じ、季節を肌で感じ、心身の活性に時々、戸外散歩で歌を皆で(ベンチに座ったり、車椅子にて)歌ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を計画して外出の機会を多く作り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話が他に聞こえないよう電話の設置場所を工夫して希望に応じてかけられる様支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来所しやすい雰囲気作りに心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて学習・自覚・理解し共有の認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出されそうな様子を察知しさりげなく声掛けをして安全面に配慮し支え、見守りを行いその日の気分状態をきめ細かくキャッチする事のケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	同じ場所で記録し、全員の状態を把握する様努め、夜間Dルームソファにて休憩取りつつ、時間ごと様子を確認、その都度対応出来る様待機し安全に過ぎて頂く様配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所の取り決めにきちんとしている、厳重に保管する物、保管管理が必要としたもの、使う時必要な物と分けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書に記録し、共有の認識を図っている。マニュアルを作成し予防対策について検討、家族へ説明報告を行なっている。防火訓練も年2回実施し徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが実践としては全職員迄対処・対応出来ておらず、隣接医院への応援依頼している。	○	消防署の協力を得て、実際のあらゆる場面に備えて対処し、活かして行きたい。技術を身に付ける取り組みを行なって行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して、定期的に消防署の協力を得て、避難誘導訓練と消火器の取り扱い方法等、訓練し全職員が出来る様実施している。	○	近隣住民の参加はないので訓練の様子を見学される様、声掛けし地域住民の協力を得る取り組みを行なって行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと取り組みを説明・理解を得られる努力をしている、やむを得ない理由も同時に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状況把握とバイタルチェックを行い、変化と気づき点を記録し、必要に応じて医療受診、早期発見対処対応に当たっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋コピーにて内容把握出来る様にしている。服薬服用確認と、変更時は状態変化にも気をつけ医療機関との連携も図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を考慮して、食材の工夫をしており主食に寒天を混入し繊維度の多い穀物・乳製品を取り入れたりもしており、身体を動かす(体操・レクリエーション・戸外散歩)機会を設け工夫し取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛けや、就寝前義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止に努め支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、台所の目に付きやすい場所に貼り、気をつけ、手・指・消毒液も使用し防止に努め家族同意の上インフルエンザ予防接種も行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具及び食器類は、漂白除菌・清潔を心掛けて台所掃除・冷蔵庫内残分はこまめに点検し処分したりしており安全な食材を使用、日々の衛生管理・点検に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチや花鉢を置き、明るい雰囲気になる様季節感を演出するよう花を生けたり行事ごとの写真・お便り等を貼り、家庭的雰囲気に近づけるよう工夫している。又靴箱を整理した事によりベンチスペースができ、腰掛けて靴を履いたりちっよとした休憩場所となった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に入居者様の作品や自室入り口に目印に似顔絵を飾ったり月ごとのカレンダー作成を、共に取り組んで飾ったり、生花や装飾や五感・季節感を意識的に取り入れる工夫・季節ごとの調度品を替える工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子を置き、絵画・花を飾り居心地の良くひとりでも過せる場所作りと、フロアではソファを置きテレビやビデオ・CDラジカセを置き家庭的雰囲気作りを工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付け家具以外の使い慣れた物の持込で居心地良く過せる工夫をしている。又空き箱のリサイクルで尿取りパッド等の衛製品入れを作成し、見た目も良いよう工夫したりもしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いがこもらぬ様、換気し部屋に消臭剤や生花を、生けたり状況に応じ空調も行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも、各部屋の家具の角切と出入りロドア下方にスポンジテープを貼り、足元にはマットをしきつめ転倒防止と安全確認に工夫し配慮もしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の表示とトイレレバーの使用方法、注意書きを貼って工夫し、本人の不安材料を取り除き、自力を取り戻せるよう試みている。又新聞紙で汚物入れを作成、トイレ内に空き箱を設置しその中へセットして自力でパッド・パンツ交換出来る様工夫もしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの周りのプランターを使用して、花・小葱・にら・青じそ等を作るスペースを確保、日常生活を楽しみながら活動出来る環境作りをしている。椅子・ベンチを設置し日向ぼっこや会話を楽しんだりの工夫し、活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活の支援を行い、入居者様と職員・共に笑顔があり、笑い声が絶えずアットホームな雰囲気満たされ、ゆっくり安らげる安心の生活が継続出来。地域に密着した「家」作りを目指しています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 誠真会 グループホームおかもと
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市亀甲251-5
記入者名 (管理者)	広瀬 愛
記入日	平成 20年 10月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちはひとりひとりを大切に、安心と尊厳のある生活を守ります、地域に密着した皆にゆとりと笑顔こぼれるホームを目指します」ゆっくりとして穏やかな安らぎのある暮らし、地域に開かれた家を目指すことを掲げながら理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関フロアーや各ユニットフロアーの目に入る位置に掲げ、申し送りやミーティング時に理念を唱和し、日々確認し合う様している。	○	理念に基づいた行動が行なわれているか互いに確認し、初心を忘れることのない様に心掛けたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には面会時や家族会の時に、地域の方には運営推進会議時に、理念について話をさせて頂いています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人達と挨拶を交わしたりする様にしています。行事の際、話をしたりふれあいの機会が持てる様努力しています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の商店街のイベント等に入居者様が参加されたり、職員はバザー等の手伝いをしたりと地域の人達とふれあう事が出来ました。敬老の日には近隣の子供会が毎年、来所してお手紙とメダルを持参され、入居者様の笑顔が見れました。	○	桜花見・餅つき(近隣の独居老人への配布)等を実施して近隣者の理解を得る様努力しているが、より地域とのふれ合いができる行事の企画を行なって行きたい、又地域の行事にもっと参加できる様働き掛け、受け入れ態勢が整うよう運営推進会議の場でも働きかけを行なっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行なっています。(他グループホーム・地域の学生・職場体験等)	○	地域の寄り合いの場所で高齢者介護の実践に基づいたケアについてのお話をする機会を得たいと自治会長さんをお願いしています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と協議しながら自己評価を行いました。又外部評価の結果を回覧後、改善策についてミーティングを度々行い、すぐ取組める項目については速やかに対処しました。	○	経営者との協議の為に、改善点を明記した書類を提示し改善に向けて取組む内容を細かく話し合った結果、処遇面・環境面の改善がなされている所です。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で検討した内容について、次回経過や・取り組み・実践内容等について、報告する様に、動いて頂けるか等確認する様にしています。	○	外部評価についての話し合いが、不十分かと思われますので、限られた会議の時間を有効に活用して、各参加者様に対し経過を報告し内容の評価を受ける等、会議内容の充実を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の交流はほとんどありませんが、理事等の社会的ボランティア活動を通じての市町村とのつながりが有り、事業所の事情や市町村のかかえている問題点について話す機会があります。	○	ホームとしての繋がりを持てる様に働きかけ入居者様に対するサービスの質の向上の為に共に取り組み、互いに悩みを解決する手立てを保っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会等に参加し、理解を深める様にしていますが、当ホームにおいて今まで該当する事例が無く活用の機会は未だありません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH連絡協議会等に参加しホーム内でも研修会を実施し虐待が起きない様職員全員が気配りをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人・ご家族様に対して月々に必要な入居料や諸経費や起こりうるリスク・ターミナルケア・医療連携体制・行事への家族の参加等、時間を取り理解して頂ける様説明を行い疑問点については何度でも説明を行なっています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見や苦情にはどんな事でも話を聴きその言葉や態度から、思いを察する努力をし、全職員と入居者様と一緒に考え解決できる方法等、満足が得られるまで色々な改善策を講じ運営の参考にしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には声を掛け入居者様の近況や状態等の説明は行なっています。又毎月ホーム便りと一緒に、個々に手紙や写真等添え、様子を知らせています。金銭管理については、各人に金銭出納帳を作成し、細かく記載し領収書を添付し報告をしています。	○ 家族と職員のコミュニケーションを大切に間隔のずれが生じない様努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回設け、自由に意見を出せる様な雰囲気作りをしています。又行事に参加された際は家族同士話し合える、座席の配置をしたり気軽に話せる様にしています。又出された意見・苦情等はミーティングで話し合い、運営に反映させています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング(申し送り後)や毎月の定例会議の際に職員の意見や要望を聞ける様にしています、又日頃からコミュニケーションを図る様に心掛け・問いかけたり・聞き出したりする様にしている。	○ 職員の処遇について未だ改善されていない点も有るのでこれからも運営者と職員の橋渡し出来る様努力していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	非常勤職員を各ユニットに3名ずつと、夜勤専門の職員を各ユニットに1名ずつ配置し、緊急時に対応していますがホーム行事の際は時間外で出勤してもらっています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	A・Bユニットの間の介護負担の差がある為、定期的に職員の異動を定めているが入居者様やご家族様への信頼関係を保つため3年程、異動は行なわれていません。又離職の場合、時期や引き継ぎの面で十分時間をかけ、1ヶ月は1対1で指導しています。新人職員が入る場合も入居者様にきちんと紹介しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他協会やGH連絡協議会の学習会や研修会に順番に参加し、定例会議の場で研修内容の報告を発表してもらい内容を後日回覧出来る様になっています。</p>	<p>○</p> <p>定例会議の終わりに各ユニットから交代で1名ずつ学習会の発表を受け持ち発表してもらっています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会や研修・勉強会に参加することによって、他の事業所の話を聴く事で問題点の発見や改善策について互いにアドバイス等行いサービスの質の向上を、目指しています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り勤務時間中に気分転換出来る様、休憩室にて休憩を取り、ストレス軽減を図っています。又職員同士の関係について把握出来る様努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は入居者様の話し相手になり、職員の勤務状態を把握しており、折に触れねぎらいの言葉をかけています。資格取得費の援助を行い資格に応じた役割を与え自己の向上を援助しています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に家庭訪問を行い、生活状態や家族での位置づけを把握し本人・家族の困り事や不安を聞き、本人にとっての問題点を本人の立場で受け止められる様に努め、本人に信頼してもらえる様努力しています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまで家庭がどの様に関わって来たか、どんな苦勞があり、どの様なサービスを利用して来たか、現在に至る経緯について時間を取って、相談相手として信頼して頂ける様に心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>すぐ入居に至らないケースでも気軽にホームに見学や相談にきてもらい相互理解が図れる様に行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の思い・状況等を確認し、現在必要とされる支援について、他事業所サービスも含めて説明や紹介出来る様努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様やご家族様がホームを見学してもらい医院からの往診を行なっている場合には、医療関係者からの説明をもらい、安心して入居して頂だける様工夫しています。又結論を急がせる事がない様時間をかけています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者様を敬う気持ちを各職員が持ち生活の中で、調理法や社会的常識・作法等について学ぶ機会を得る様に食後の団欒等で話し合える場面の設定に配慮しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と悩み事等を話し合いをする機会を日常的に持つ様にし悩みや問題点を共有し、共に協力しあいながら、本人様を支える事が出来る様に気軽に話し合える関係作りをしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様との外出の機会を持てる様働きかけると共に行事へ招待し楽しい体験を共有出来る様にしています。又ご本人とご家族様との関係が円滑に運ぶ様職員が橋渡し役を行なう様にしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に、ご本人様の行きつけの美容院やショッピングセンター等に出かけられる様外出介助を行なっています。又地域で暮らす馴染みの知人・友人等がホームに来所されたり、入居前の付き合いが途絶えない様に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の日常の行動・言動を踏まえた上で個々の相談に乗ったり話を聴いたり、入居者様同士の関係が悪くならない様職員が介入調整役となっています。又食卓の席の配置にも気を配り、話し友達の輪が出来る様に工夫しています。	○	難聴や性格上の問題等でひとりで過される時間が多い方もあり、職員が会話をしたり関わる様になっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関への入院の為に退所された方への見舞いや面会を行いご家族様にもホーム復帰の希望を失わせない様、相談してもらえ様努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でそっと寄り添い関わることにより、相手の心境を読み取り、本質的に求めている事が何かを捉えご家族様と共にご本人様の希望に添う暮らし方を検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中からお家族様との日々の関わりの中でそれとなく聴き取りが出来る様に気を配っています。又プライバシーに関する事については徐々に先方から話しをしてもらえるまで待つ様にしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様個々の生活リズムを理解すると共に、日々変化する状況を記録し今の暮らしについて全体的な状態を把握出来る様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の思いや意見を聞き職員や外部の専門職・自治体関係者の意見を総合的に考慮し、介護計画の作成に活かしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現行のケアと計画にズレが生じないか常にチェックしながら、状態の変化の見直しが必要な場合、計画の変更を行なう様に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の状況に応じて、排泄チェック表・身体状況チェック表等で時間をおって記載しています。又日々の暮らしの様子、ご本人様の言葉について職員が気づき対応した事を介護記録に残し朝・夕の申し送り時にカンファレンスを行い計画の見直しに繋がっています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の状況やご本人様の状態に応じて受診が必要な場合、通所介護や外出希望時の送迎介護・付き添い等を行いストレス解消状態の安定に繋がっています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人様と地域とのさまざまな接点を見出せる様に地区の町内会長様等と話し合いや相談を行なっています。又社協を通じてボランティアの紹介等もお願いしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護外のサービスとして、入居者様の状態や希望に応じて、ヘルパー資格を有する訪問理容師の散髪を依頼しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度の運営推進会議に社協の包括支援センターの職員が参加されこれをきっかけに交流が出来ました。又周辺の情報やボランティアの情報等の交換が行なわれる様になり協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医療機関への受診介助や送迎を行なっています。又ご家族様の協力が得られる場合は受診への対応をお願いして他医療機関との関係を保つ様にしていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>各職員が入居者様のプライバシー保持や尊厳を守る接し方に留意しておりトイレの声掛けもさりげなく誘導する等気配りをしています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>個々に合わせた声掛けや対応の仕方を工夫し、ご本人様に説明し、納得した上での意思決定をして頂ける様努力しています。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>個人の1日の過ごし方に出来るだけ添える様、食事時間や起床や就寝時間は個々のペースに合わせる様にしています。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>美容室はご本人様のなじみの店に行かれ、カット・パーマ等が出来る様に連携を取り、送迎支援等も行なっています。服は基本的にご本人様が選んで着用して頂いてます。又ご自分で着用出来ない方には、出来ない所だけ手伝う様に支援しています。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>入居者様の好みの物を相談しながらバランスの摂れたメニュー作りをしています。又調理のしたごしらえ、盛り付け等も共に行なっています。入居者様と職員と同じテーブルで同じメニューを摂り楽しく食事出来る様配慮しています。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>おやつ・飲み物・健康食品については個々の生活習慣に合わせて適量を提供して、自己管理出来る方は自室に冷蔵庫を置き好きな時に楽しめる様にしています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンを職員全員が把握して、さりげなくトイレ誘導を行なうことで失禁せず、陰部も清潔を保つ事が出来ています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様のその日の気分や入浴の希望・時間を一人一人声掛けをし入浴して頂いています。	○	就寝前に温まり安眠が出来る方には、足浴を楽しんで頂いています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し一人一人の体調や活動量・希望等考えてゆっくりと休憩が取れる様にしています。又眠れないと云う方には、お好みの飲み物を飲んで頂いたりして、話をしたりしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の力を発揮してもらえる様に、得意な家事を中心としたお手伝いをお願いしています。又感謝の言葉を伝える様にしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、ご本人様が管理出来る金額を持って頂き、外出時や受診等の際、現金支払い出来る様に、ご本人様に行なってもらっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人様の気分や希望に応じて、個人個人の希望に添い、散歩・買い物・外出等の付き添いを行い出かけています。	○	買い物等の行き先が固定化しているので、業務の調整をしながら日常の買い物に出かける機会を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人様が行きたいと、思う場所等は個人個人の意見を聞き、出来るだけ希望に添える様にしています。又高瀬浦川花しょうぶ祭りや山田の藤見学等、季節を肌で感じられる場所になっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望に合わせ、電話をかけられる様にしています。ご自分でかけられない方には職員がダイヤルを回し取次ぎ介助を行い、会話中はそれとなく席を外す様にしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は午後9時迄となっていますので、ご家族様の仕事帰り等、ご都合のいい時間帯にいつでも面会に来て頂ける様にしています。又面会時には、お茶と・笑顔と・感謝の言葉を伝えています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議の場で1階・2階の入居者様の状況報告を行い、身体拘束等がないか、確認を行なっています。又拘束の基準についても学習会を行い、全ての職員の共有認識を図っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者様が外出しそうな様子を感じたら、止めるのではなくさりげなく声掛けをし付き添いをしています。又付き添いが必要な時は職員が常に行動を確認し不穏状態が強い時は、1対1で付き添い、話し相手をする様にして安全面に配慮しています。室内からの操作で、自由に出られる様になっています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は全体が見渡せるDルームで記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全入居者様の状態を把握出来る様にしています。又夜間は2時間毎の巡視と物音や声等に注意して、直ぐ訪室出来る様にしています。夜勤帯もDルームで過す様にしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・カッター・ポット等は常に入居者様が利用出来る位置にあり、使用の際は常に職員が観察を、離れた場所から「そっと」見守りしたりして、一緒にしたりもしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人個人の状態から予測される危険等、対処方法を常にミーティングをし申し送りノートで共有認識を図っています。又ひやり・はつとを記録し今後の予防対策について検討を行い記録して次からのケアに生かす様に、ご家族様への説明と報告を行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時や急変時には速やかに隣接の医院へ連絡し、直ぐ医師・看護師の対応・処置が行なわれる様にしています。本年度は救急心肺蘇生法の研修は実施されていません。	○	年1回は消防署の協力を得て、救急手当や蘇生法の研修に参加出来る様にしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、隣接の医院と合同で入居者様も参加され防災訓練を行なっています。又消防署の指導で避難誘導に関する注意点や消火器の取り扱い等訓練を受けています。	○	災害時の非難について地域の消防団等との連絡・連携を図り協力を得られる様システムを作成したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	抑圧感のない暮らしが、ご本人様にとって運動能力や気力の向上や表情を明るくしますので、多様な役割活動や自由な外出等により事故・転倒等のリスクが高くなる等の説明をして理解を得られる様にしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の様子に異変が見られた場合、直ちにバイタルチェックを行い隣接の医院に連絡し看護師に状態の報告をする様にしています。又職員が勝手に判断せず医師・看護師に診てもらう様にしています。必要に応じて管理者への連絡も行なっています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録はインデックスに全員の処方薬と用法・用量・効能について記載した用紙を添付しています。又個人ファイルには処方薬の内容を記録し変更時は日付と薬品名を記入する様にしている、職員全員が確認出来る様にしています。又副作用が心配される薬については申し送りノートに観察事項を明記しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表で、便通の確認が出来る様にしています。又戸外散歩や室内歩行等、身体を動かす機会を取り入れたり食物繊維の多い食材や牛乳等の乳製品を採り入れて、自然排便に繋がる様工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人の能力に応じた介助をしています。又就寝前は入れ歯洗浄剤を使い義歯洗浄をし口腔内の清潔保持に努めています。	○	事業所内での口腔ケアの実技研修を行なう予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表や水分チェック表で食事量や水分摂取量が職員全員が確認出来る様にしています。又食欲減退時は、医師・看護師へ報告して指示をもらう様にしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について、職員が予防と早期発見についてのマニュアルを学習し回覧しています。又入居者様・職員共にインフルエンザ予防接種を受け、手洗い時の手拭きはペーパータオルを使用し、トイレには消毒液を設置、台所には食中毒症状や予防が記載されたものがある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、1日3回漂白し清潔を心掛けています。安全な食材管理には常に冷蔵庫内の掃除と賞味期限の確認となるべく買い置きをしない様にしています。又魚介類は決まった魚屋さんでその日の物を配達してもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横にはベンチやプランター等を置いたり、玄関脇には花壇を作り明るく和める雰囲気を作っています。又医院外来の方にも休憩出来る様配慮しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に月ごとのカレンダーを作り飾り付けや色塗りを一緒にして頂いたりして、旬の食材を使い意識的に季節を楽しめる様に工夫しています。又居間のテレビや音楽等は番組内容や楽曲に気を配り音量も心地よい音量で聴ける様配慮しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにはソファや小さなテーブル等を置いたり、仲の良いご入居者様同士のテーブルの席を作り、食後談話出来る様にしています。	○	共有空間で一人で過す家具の配置等いくつかの案を出しながら工夫して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様とご家族様と相談しながら馴染みの物を持って来て頂ける様をお願いしています。自室にはご家族様の写真やカーペット・仏壇・タンス等使い慣れた物を置いて頂き、居心地のよい空間に配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝・食後に換気をしています、寒がりの方が多いため冷暖房は高めの温度設定として入居者様の発汗や冷え等の状態の観察をしながら小まめに温度調整する様にしています。又トイレは換気扇や消臭剤等を使用しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて車椅子の方でも外出等が安全に出来る様、エレベーターが設置されており、手すり等も設けられ安全に移動出来る様配慮されています。又浴室・トイレ・廊下等、居住環境も安全に利用出来る様になっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人個人にとって理解出来る事や、何が困っているか等の原因を知り解決出来る様、職員で話し合いご本人様の不安材料を取り除き、環境を整えていく様にしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターを置き、花や野菜を植えたり玄関先にはベンチを置いて休憩したり草・木が眺められる様工夫しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人個人を大切にして、日常生活の支援を行い、家庭的な雰囲気です隣接の医院もあり安心して・ゆっくり・安らげる生活が継続出来、地域に密着した「家」を目指し頑張っています。